

比較現代文化論 (Views on Comparative Modern Cultures)		1年・前期・2単位・選択必修 3専攻共通
		担当者名 大矢 良哲
	[システム創成工学教育プログラム学習・教育目標] C-2(75%) , D-1(25%)	[JABEE 基準] (f) , (a)
〔講義の目的〕 2015年は終戦70周年であり、日韓国交正常化から50年を迎える。今日、日本と東アジア諸国、なかでも韓国・中国との外交関係は難しい状態にある。講義では、本科の歴史ではほとんどふれることができなかった近代東アジア国際関係史を取りあげる。将来、グローバル世界で生きる諸君には自国の文化や歴史をよく理解し、自分の言葉で考えを語ること也不可欠となる。そのため、若い学生諸君には、わが国と朝鮮半島や中国との歴史を正しく理解してもらう必要がある。当初予定していた講義内容を、大幅に変更した理由はここにある。		
〔講義の概要〕 日本と中国・韓国との関係悪化の原因はどのようなところにあるか、この歴史問題に焦点を据え、長い国際関係史をわかりやすく概説する。		
〔履修上の留意点〕 これからの日本の針路を考えると、どうしても切り離すことができないのがこの問題である。将来、時代を担うものとして、この歴史を学んでほしい。履修上の留意点は次のとおり。 ① シラバスを参考にして、予習・復習を行うこと。 ② 配布するプリント類に目を通し、記述内容をノートする。		
〔到達目標〕 ① 古代の日朝・日中関係史を理解する。 ② 中世における外交関係の変化について理解する。 ③ 「鎖国」から「開国」へと、日本の政治はどのように変化したか、その歴史を理解する。 ④ 日清・日露戦争後の戦後経営について理解する。 ⑤ 日中戦争はどのようにおこったか、その歴史を理解する。 ⑥ 太平洋戦争―その「戦争責任」「戦後問題」を理解する。 ⑦ 戦後70年の日本アジア外交を理解する。 ⑧ 日本の針路を考える。		
〔自己学習〕 目標を達成するためには、講義内容についての予習を行うことが望ましい。講義後はプリントをもとに復習し、復習する。		
〔評価方法〕 授業に対する取り組み・積極性（20%）と定期試験（80%）の成績で評価する。		
〔教科書〕 教科書は使用しない。プリント教材を配布する。 〔参考文献〕		
〔関連科目〕 本科の地理・歴史Ⅰ・歴史Ⅱ・政治経済等の分野を基礎にしていることは言うまでもない。人文・社会系の科目を総合したもので、全ての分野に何らかの関係がある。		

講義項目・内容

講義数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス		
第2週	古代東アジアの中の日本	古代の日朝関係	
第3週		古代の日中関係	
第4週	中近世東アジアと日本	元寇・日明貿易・南蛮貿易・朝鮮出兵・鎖国	
第5週	近代東アジアの中の日本	「鎖国」から「開国」へ ― 不平等条約の改正と征韓論	
第6週		日清・日露戦争 ― 大陸への進出	
第7週		韓国併合 ― 植民地支配	
第8週		中国侵略 ― 中国をめぐる日米の対立	
第9週		太平洋戦争 ― 戦争責任	
第10週		戦後の時代 ① 占領と冷戦	
第11週		② 沖縄返還・日中国交正常化	
第12週	歴史から学ぶもの	21世紀のアジア ① 大中国とどう向き合うか	
第13週		② 韓国・北朝鮮・ロシアはどう考えるべきか	
第14週		③ 日本が果たすべき役割は何か	
第15週	試験		

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)